

日経サステナブル総合調査2025

～参加を検討されている方向け回答ガイド～

NIKKEI-R

日経リサーチ

- 参加企業には新聞掲載・無償で使えるロゴ配布の特典があります
- 特に参加をお奨めします！
 - ✓ 統合報告書を発行している企業
 - ✓ 各種認定を取得している企業
 - ✓ 人的資本開示をこれから充実させたい企業

1. 調査の概要

2. 回答企業の推移・回答企業特典

3. ★3を目指すためのポイント

4. 回答作成のステップ

- 日本経済新聞社はSDGs経営とスマートワーク経営を一体化した、日経サステナブル総合調査を2024年からスタートしました
- 2025年においても引き続き、
 - ・スマートワーク経営編
 - ・SDGs経営編の2つの評価を行う日経サステナブル総合調査を実施いたします

NIKKEI
Smart Work

NIKKEI
SDGs

スマートワークプロジェクトの新フレームワーク



※ここで示す「企業価値」とは上場企業であれば、一義的には、株式市場で評価された企業の価値、つまり、時価総額（株価×株数）を示す。このため、企業価値は財務諸表から得られる企業業績の実績に限らず、その将来性などが加味されている。また、近年、企業の社会貢献なども株式市場で評価され、企業価値に反映されるようになってきていることも考慮し、財務諸表からのみ測られることが多かった従来の企業パフォーマンス、企業業績よりも幅広い要素を含む概念として捉えている。

- 日経グループは、新たな時代に企業価値を高める経営のあり方として「**スマートワーク経営**」を提案します
- 企業の持続的発展には、最も重要な経営資源である**人的資産の充実**が不可欠です
- 「スマートワーク経営」とは、従業員のウェルビーイングの向上等により**人材を最大限活用**するとともに、**人材投資を加速**させることで、新たなイノベーションを生み出し、生産性を向上させ、企業価値を最大化させることを目指す経営戦略です

- 日本経済新聞社はSDGs達成への貢献活動の一環として、企業を対象にSDGsおよびESGの推進を評価する、「日経SDGs経営」と、評価結果に基づく企業表彰を実施
- SDGsを経営と結びつけることで、**事業を通じて社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上につなげている企業を評価する**とともに、SDGs達成を後押し

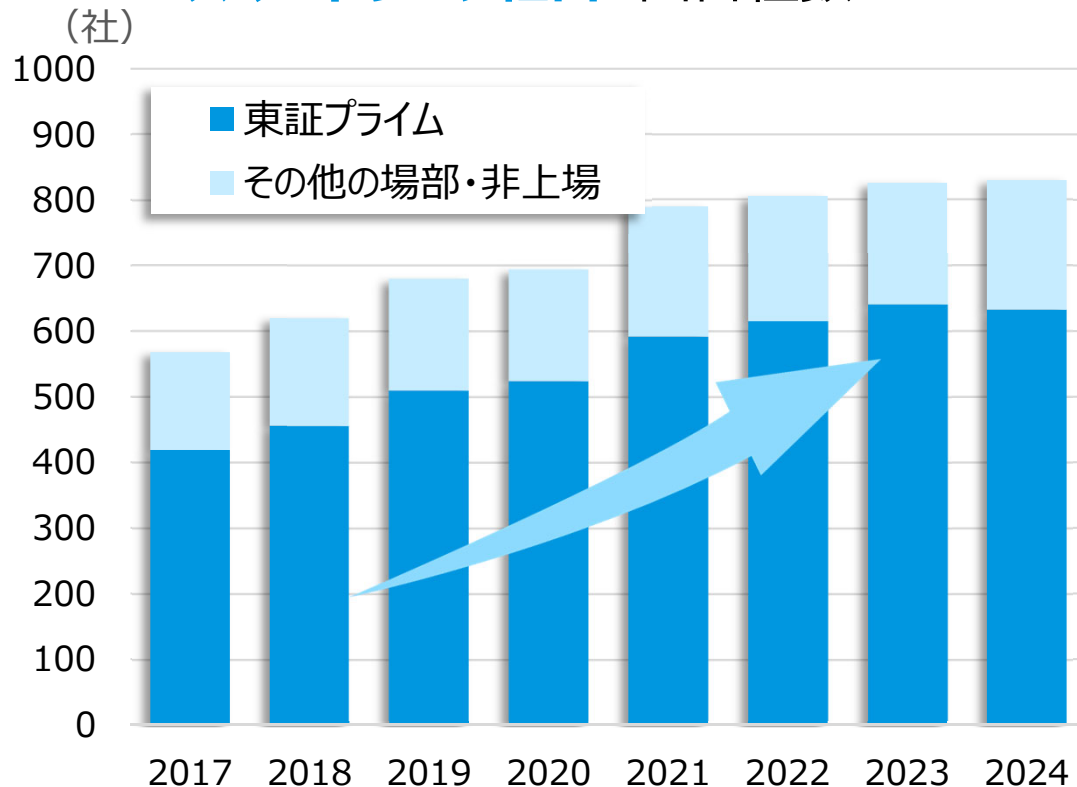
NIKKEI
SDGs



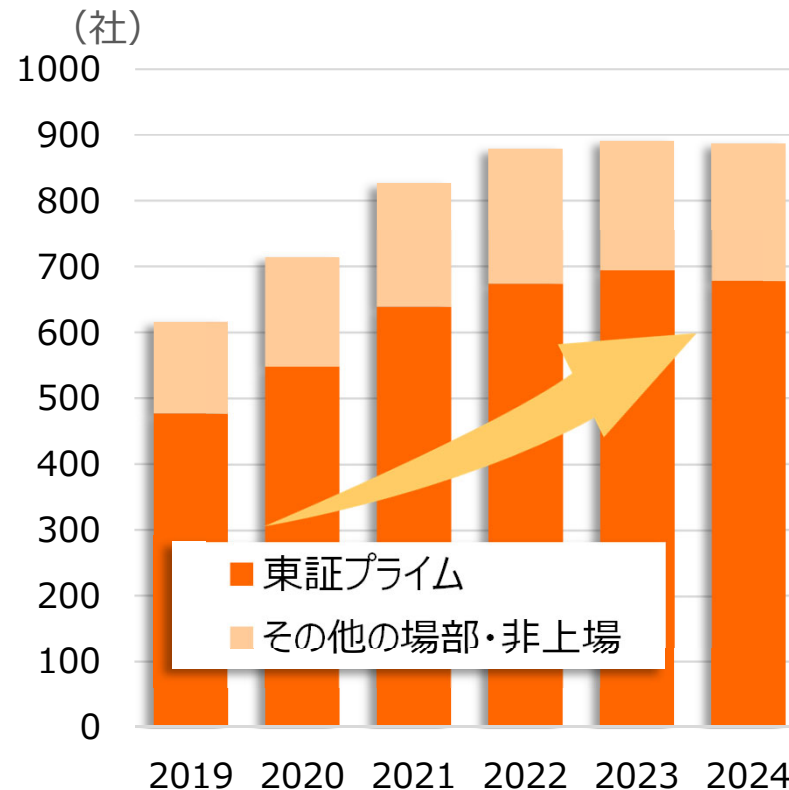
1. 調査の概要
- 2. 回答企業の推移・回答企業特典**
3. ★3を目指すためのポイント
4. 回答作成のステップ

- 回答企業は年々増加
- 特に東証プライム上場企業（2025年5月時点）の増加が顕著
- 日経225企業は例年8割以上が回答しています

スマートワーク経営 回答社数

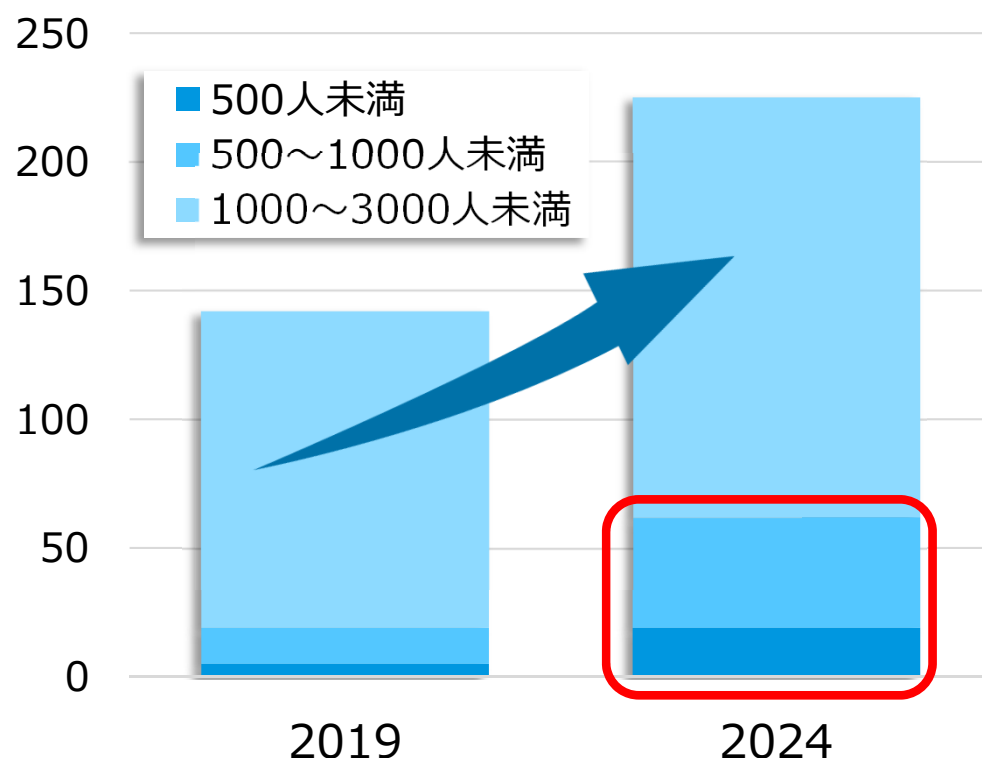


SDGs経営 回答社数

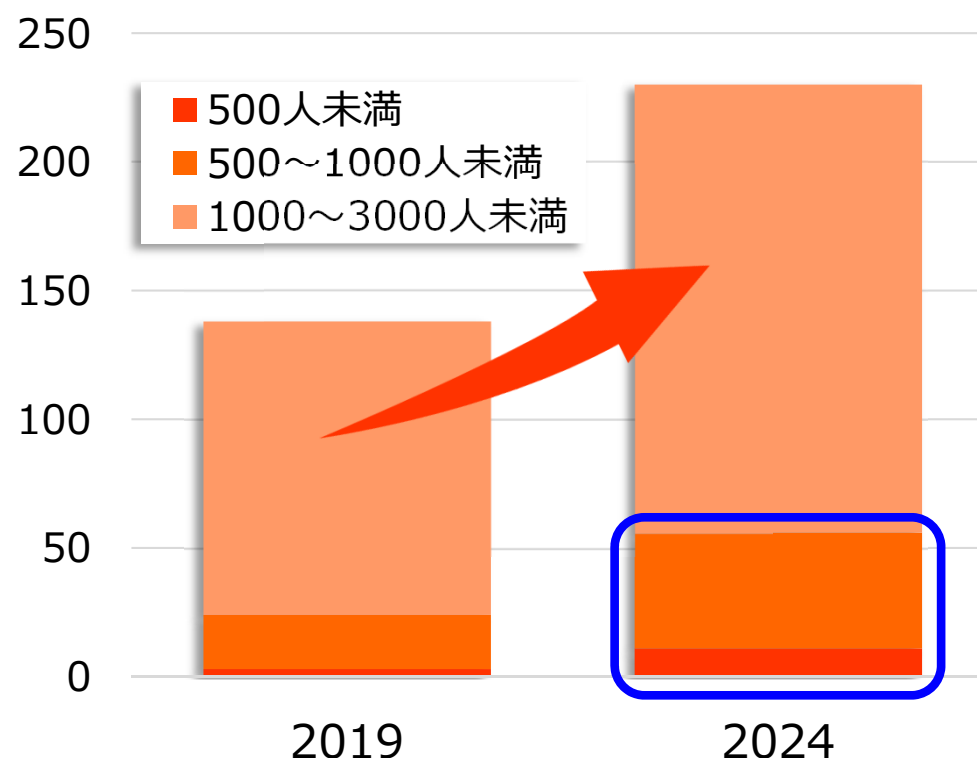


- 最上位企業は大企業中心ですが…
- **評価付の掲載・ロゴ配布対象**となる★3以上（偏差値50～）でみると中堅企業も増えています
- **スマートワーク**は調査フレームの変更で**中堅企業が上位を目指しやすく**

(社) **スマートワーク経営** ★3以上



(社) **SDGs経営** ★3以上



*人数は人材活用力の回答のベースとなる正社員数

- 日本経済新聞に**分野別評価と格付け**が掲載されます
(★2.5以下は回答企業一覧のみの掲載です)

※SDGs経営とスマートワーク経営それぞれ掲載されますので

両方回答し、両方で★3以上を獲得すれば2回掲載されます

※回答用ポータルサイトにて昨年の掲載紙がダウンロードできます

<https://brs.nikkei-r.co.jp/swsdgs2025/>

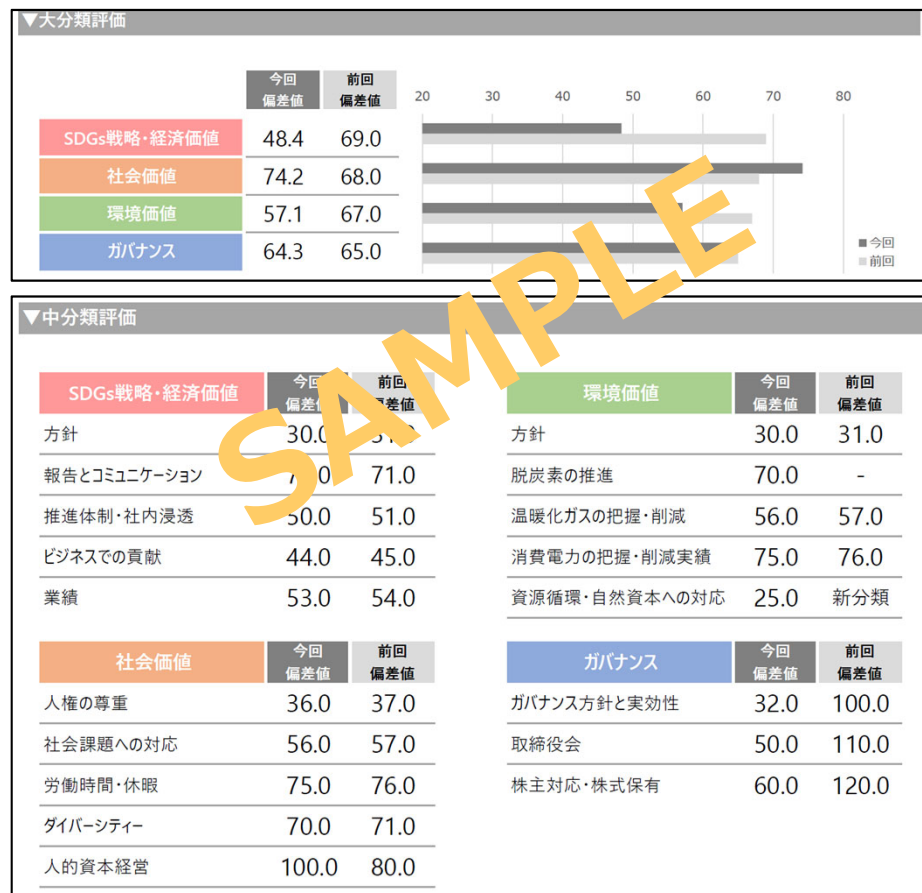
- **★付きのロゴ**が配布されます

ロゴは無償で自社のHPやニュースリリース、統合報告書などに使用可能
(「第三者評価」「認定」などの一つとして掲載している企業多数)



今回調査のロゴは
2026になります

新聞には掲載されない自社のスコア詳細をフィードバックします



★3未満でも参加企業ロゴが使用できます (スマートワークのみ)

NIKKEI
Smart Work
Company 2025

■ 統合報告書を発行している企業

- ⇒ 統合報告書の内容でそのまま回答が作成できる設問もあります。
- ⇒ 特に**SDGs経営**への参加をご検討ください。

■ 各種認定を取得している企業

- ⇒ 働きがいのある企業認定、DX認定などを取得している場合、一部分野の設問で高評価を得られる可能性があります。
- ぜひ自信のある分野の数量値・自由記述を重点的にご回答ください。

■ 人的資本開示をこれから充実させたい企業

- ⇒ 調査票は、開示をすることが評価される指標を中心に作成しており、当調査の回答、特に数量値を回答するために集めたデータはそのまま開示でも使用できるものが多いです。
- ⇒ フィードバック資料から、貴社がアピールしやすい分野を知ることができます。
- ⇒ 特に**スマートワーク経営**への参加をご検討ください。

1. 調査の概要
2. 回答企業の推移・回答企業特典
- 3. ★3を目指すためのポイント**
4. 回答作成のステップ

★3を目指すには

- 調査票のボリュームは非常に多いですが、上位企業の差をつけるための設問も多いです
- ★3（偏差値50～）を目指す場合、必ずしも全ての設問を埋めなければいけないわけではありません

■ 選択肢を「いくつでも」選べる設問 例：BQ11、BQ16、EQ6など）
自社の取り組みや採用している制度をチェックします。
回答しやすい設問なので、**8割以上**の回答を目指します。

■ 選択肢を「ひとつだけ」選べる設問 例：BQ26、EQ5、EQ16など）
具体的な数字では回答しづらい数量値などが該当します。
おおよその水準でよいので、**7～8割以上**の回答を目指します。

■ 数字で回答する設問 例：BQ5、BQ6、EQ33など）
回答の難易度が上がりますが、評価との相関が高い回答タイプです。
特に「基本情報」（AQ1～7、BQ5～7）は多くの設問で使われる重要なデータなので優先的に回答し、**6～8割**の回答を目指します。

■ 事例について記述する設問 例：BQ65、EQ18、EQ28など）
回答しても必ず得点が入るわけではないため、評価との相関が低いです。
★3を目指す場合は**自信のある箇所以外、無理に埋める必要はありません。**

▶ 継続での回答をお奨めします

- 調査票には**前回の回答が差し込まれる**ため、継続回答で回答負担が減ります
- 初回は★3に到達しなくても、継続回答することで★3に到達しやすくなります

両調査とも3年連続回答し、かつ2022年に★2.5以下（偏差値50未満）だった179社のうち、スマートワーク経営では**23社**、SDGs経営では**14社**が2024年には★3以上を獲得しています

2022年調査時、両調査で偏差値50未満だった**3年連続回答企業**のその後の偏差値推移

星	2022	2023	2024
★★★★★	0	0	1
★★★★☆	0	3	4
★★★☆☆	0	11	19
★★★☆☆	68	47	63
★★★☆☆	63	74	50
★★★☆☆	31	28	23
★★★☆☆	15	14	14
★★★☆☆	2	2	5

スマートワーク経営

星	2022	2023	2024
★★★★★	0	0	0
★★★★☆	0	0	2
★★★☆☆	0	11	12
★★★☆☆	52	48	57
★★★☆☆	67	59	58
★★★☆☆	37	40	31
★★★☆☆	22	20	17
★★★☆☆	1	1	2

SDGs経営

- ランキング調査に初めて参加する場合にネックになりやすいのは
他部署の協力を得にくいこと



- まずは自部署だけで対応できる範囲で回答してみましょう
フィードバックを確認・共有することで自社の強み・弱みの把握に加え、
次回以降、他部署の協力を得やすくなります

【広報・コーポレートコミュニケーション担当部署の方】

⇒有報、統合報告書などの**公表資料**をもとに回答作成してみましょう

【人事担当部署の方】

⇒**スマートワークのみ**の回答であれば、
人事データからある程度の回答作成が可能です

【サステナビリティ推進部署の方】

⇒**SDGsのみ**の回答であれば、
統合報告書作成のためのデータ等からある程度の回答作成が可能です

1. 調査の概要
2. 回答企業の推移・回答企業特典
3. ★3を目指すためのポイント
- 4. 回答作成のステップ°**

Step1 : 重点回答セクションを決める

スマートワーク・SDGs両方で使用

共通設問

- 事業内容、拠点など
- 経営トップ・取締役
- 人材活用における方針・計画と責任体制
- 正社員の人数、構成比などの基本情報

- 労働時間の削減、休暇取得、健康保持
- ダイバーシティの推進
- エンゲージメント
- 人材への投資

39問

SW設問

- 賃金、人事評価
- 多様で柔軟な働き方
- イノベーション人材育成
- テクノロジーの導入・活用
- 変革・先進・独自施策
- イノベーション創出支援
- イノベーションへの投資
- 顧客対応スタッフ、現場スタッフ
- グループ全体のエンゲージメント・現場力向上

スマートワーク
のみで使用

52問

SDGs設問

- SDGsの推進体制
- 経済価値
- 環境価値
- 社会価値
- ガバナンス

SDGsのみで使用

64問

Step1 : 重点回答セクションを決める

共通設問

スマートワーク・SDGs両方で使用

- 事業内容、拠点など
- 経営トップ・取締役
- 人材活用における方針・計画と責任体制
- 正社員の人数、構成比などの基本情報

- 労働時間の削減、休暇取得、健康保持
- ダイバーシティの推進
- エンゲージメント
- 人材への投資

39問

SW設問

- 賃金、人事評価
- 多様で柔軟な働き方
- イノベーション人材育成
- テクノロジーの導入・活用
- 変革・先進・独自施策
- イノベーション創出支援
- イノベーションへの投資
- 顧客対応スタッフ、現場スタッフ
- グループ全体のエンゲージメント・現場力向上

スマートワーク
のみで使用

52問

共通設問、なかでも

・AQの属性や役員など
貴社の基本的な情報

・BQ5～7の
正社員に関する基本情報

はSW・SDGs双方にかかわる重要な設問になりますので、最優先でご回答ください

Step1 : 重点回答セクションを決める

スマートワーク・SDGs両方で使用

共通設問

- 事業内容、拠点など
- 経営トップ・取締役
- 人材活用における方針・計画と責任体制
- 正社員の人数、構成比などの基本情報

- 労働時間の削減、休暇取得、健康保持
- ダイバーシティの推進
- エンゲージメント
- 人材への投資

39問

SW設問

- 賃金、人事評価
- 多様で柔軟な働き方
- イノベーション人材育成

スマートワーク
のみで使用

- テクノロジーの導入・活用
- 変革・先進・独自施策
- イノベーション創出支援
- イノベーションへの投資
- 顧客対応スタッフ、現場スタッフ
- グループ全体のエンゲージメント・現場力向上

52問

SDGs設問

人事担当部門の方が回答作成する場合は
青枠の部分が特に埋めやすいセクションです。
スマートワークのみの参加も可能ですので
ご検討ください。

- 社会貢献
- ガバナンス

64問

Step1 : 重点回答セクションを決める

スマートワーク・SDGs両方で使用

共通設問

- 事業内容、拠点など
- 経営トップ・取締役
- 人材活用における方針・計画と責任体制
- 正社員の人数、構成比などの基本情報

- 労働時間の削減、休暇取得、健康保持
- ダイバーシティの推進
- エンゲージメント
- 人材への投資

39問

SW設問

- 賃金、人事評価

サステナビリティ推進部門の方が回答作成する場合は

赤枠の部分が特に埋めやすいセクションです。
SDGsのみの参加も可能ですので
ご検討ください。

- イノベーションへの投資
- 顧客対応スタッフ、現場スタッフ
- グループ全体のエンゲージメント・現場力向上

SDGs設問

- SDGsの推進体制
- 経済価値
- 環境価値
- 社会価値
- ガバナンス

SDGsのみで使用

64問

基本的な情報はスマートワーク・SDGs双方にかかわる重要な設問になりますので、最優先でご回答ください

■ BtoC比率や海外比率、職掌構成など

⇒各社の特徴を把握し、企業の特徴に合った評価をするために使用します。
正確な値を求めることは難しく、また厳密な値を求めているわけではないため
自社の考える定義で大まかにご回答ください。

■ 役員、従業員の人数など

⇒少なくとも正社員に関しては、何らかデータをお持ちのことと思います。
年代別が難しい場合、合計人数のみでも構いませんのでご回答ください。
⇒役員は「貴社名」に記載の企業の情報のみ（単体）でのご回答です。
上場企業であれば、有価証券報告書にも記載されている内容になります。
⇒従業員情報は原則、自社単体ベース（持株会社の場合は主要な事業会社）
無理にグループ回答をする必要はありません。

「いくつでも選択」の設問は、自社で実施していることをチェックしていけばよい
ため、詳細な情報がなくても回答可能です

■ BQの人材関連の取り組み

⇒選択肢は表現が一般化されているため、一見ピンとこないかもしれませんが
研修や制度などは各社ごとに固有名詞があることが多いと思います。
選択肢から具体的な自社の研修や制度の名称が思い浮かぶものは
基本的にチェックをつけられる選択肢であるとお考えください。

■ EQのSDGs関連の取り組み

⇒SDGs関連の取り組みは一般的に「環境」「社会」「人権」「ガバナンス」など
カテゴリー別にまとめて統合報告書や自社サイト等で公開していることが
多いと思います。公開されている内容であれば直接の担当部門でなくても
資料をみながらチェックしていただけます。

人材系の数値データは社内的人事データをもとに回答する必要がある内容が多いですが、統合報告書などの公表データをそのまま回答できる設問もございます

■ **公開されている情報は公表データをそのまま使用できます**

⇒有給取得率（BQ15）、学び直し支援制度利用人数（BQ30）
キャリア自律関連（BQ39）、育児休業関連（BQ47）などは
統合報告書や自社サイトに「データブック」等で公開していることも多いです。

■ **研修、IT人材関連は把握している範囲で**

⇒教育研修費・研修時間（BQ28）、IT人材（BQ55）などは
会社全体の人数や金額を集約するのは難しくても、少なくとも一部は
本社部門で把握しているのではないかと思います。
これらの値は**把握している範囲での回答が可能**ですので、
一部だけでも把握しているのであれば、その範囲でご回答いただけます。

サステナビリティ系データのうち特に「環境負荷データ」「ガバナンス関連」は公開情報から回答できる可能性が高いです

■ **環境負荷データは開示の体裁がある程度決まっています**

⇒環境報告書、サステナビリティレポート、統合報告書などを公開している場合
おそらくデータがまとまっているページがありますので
環境負荷データ（EQ31～EQ35）はそういったページを参照すれば
回答できるかと思います。

■ **ガバナンス関連はコーポレートガバナンス報告書から**

⇒上場企業であれば、コーポレートガバナンス報告書を提出していますので
こちらを参照すれば、ガバナンス関連の設問（AQ6、EQ48～62）の
大部分の回答が作成可能です。

Step1～5で埋まらなかった項目のうち、時間をかけずに回答できそうな項目がないか確認しましょう

■ 自社サイトや統合報告書で公開しているユニークな取り組み

⇒ユニークな取り組み（自由記述）を一から作文するのは大変ですが、貴社が自信を持っている分野に関しては、自社サイトや統合報告書あるいは採用サイトなどに既に文章が存在していることも多いかと思います。

⇒既存の文章が存在するのであれば、それをコピー＆ペーストした上で制限字数に要約することで、時間をかけずに回答が埋められます。

⇒自由記述の設問は、一般的な回答を満遍なく埋めるよりも一部が空欄であっても、得意な分野で「とがった」回答をする方が結果的に高得点につながります。

■ 日経リサーチ サステナブル総合調査特設サイト

https://www.nikkei-r.co.jp/service/survey/smartwork_survey/

■ 日経SDGs経営アーカイブ

https://www.nikkei-r.co.jp/service/survey/sdgs_survey/result/

■ 日経Smart Workプロジェクト

<https://smartwork.nikkei.co.jp/>

調査に関するお問い合わせ先

日経リサーチ 編集企画部
日経サステナブル総合調査事務局



03-5296-5198



sw-survey@nikkei-r.co.jp